

輝け！ しろやま

第144号

城山高校便り
編集委員会

〒781-5310
香南市赤岡町1612番地
高知県立城山高等学校
TEL 0887-55-2126
FAX 0887-55-0170

卒業進級おめでとうです

校長 山下 英雄

3月1日をもって本校を卒業される26名の3年次生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが城山高校で過ごした3年間はどのような意味があったのでしょうか。入学した当時を思い出してください。どのような思いで城山高校に入学してきましたか。入学式の日、私は茶道や禅の言葉の「一期一会」という言葉を皆さんに紹介しました。限られた時間と空間の中で出会える人の数は出会えない人の数と比べるとずっと少ない。だからこそ、これからの出会いを大切にしたいと話しています。相手の良いところ、目を向け、感謝の心を大切にすると良い出会いは自然と増えていきます。良い出会いは人生をより豊かなものにしてくれます。皆さんの人生は、これからの方がずっと長いものになります。高校での出会いも大切にしながら、豊かな人生を送るために、あらためて「一期一会」の気持ちを大切に過ごしてください。

さて、昨年度末から全世界で新型コロナウイルスが猛威を振っています。城山高校でも令和2年3月4日から19日及び4月13日から5月18日まで臨時休業としました。また、今年度の2年次生の修学旅行は中止し、文化祭は外部への一般公開は取り止めました。そして、高知県で

は12月から毎日感染者が報告され、令和3年1月31日の時点で、感染者数847名、死者14名になっています。

この新型コロナウイルス感染の拡大のような逆境にあるとき、今年の大河の主人公の渋沢栄一翁は『論語と算盤』のなかで、「自然的逆境は大丈夫の試金石であるが、足るを知りて分を守り、これは如何に焦慮すればとて、天命であるから仕方ないときあらば、心は平らかなるを得るに相違ない。天命に安んじ、おもむろに來るべき運命を待ちつつ、たゆまず屈せず勉強するがよい。」と述べています。この言葉を少し現代風に訳すと「自分自身でどうしようもできない逆境にあるときは、自分自身が試されていると思い、できることに精一杯取り組み、天命であるとき心穏やかにし、運命を受け入れつつ、油断せず、くじけず、努力をして困難に立ち向かう」となるでしょうか。

つまりこれをコロナ禍の現在に置き換えると、「試されているのは私たちの生き方であり、感染対策をしつかりとし、目に見えないウイルスを極端に恐れるのではなく、油断せず、助け合って、ワクチンや予防薬ができることを期待して、粘り強く困難に立ち向かいましょう」となるのだと思います。

新型コロナウイルス感染の拡大により、大きく生活が変わりました。外に出歩く時間が減り、

家で過ごす時間が増えました。しかし、考え方を少し変えようと、一人で考える時間が多くなったり、今までできなかったことができるようになったりとマイナス面だけではないのかなと思います。私は読書をする時間が増えました。そしてその時間を使って読んだ本の1冊が『論語と算盤』です。こうして考えると、制限がかかった中でもできることがたくさんあるのだと気づきます。

ただし今回のコロナ禍については忘れてはならないこともあります。このコロナ禍で苦しんでいる人たちのことです。感染者や医療従事者に対する差別もあります。コロナ禍は必ず終息します。油断せず、くじけず、この逆境を乗り越えましょう。大人になって振り返ったとき、今年が人生のなかでも大きな節であったことがわかると思います。

次に、1年次生、2年次生の皆さんへのメッセージです。皆さんはそれぞれ一学年上の学年に上がり、4月には新入生が城山高校に入学してきます。皆さんには、城山高校の先輩として、良い手本となり、新入生をより良き方向に導いてもらいたいと思います。また、一人一人が希望する進路を実現させるため、基礎基本の学力を習得することはもちろんですが、規律や礼儀を守り、社会の一員として自覚と責任を持った行動をお願いします。すべての城高生が、自分自身の良いところを見つけ、社会の中で自分自身の役割を果たしながら、自分らしい生き方をしていく力を身に付けてください。大いに期待しています。

結びになりますが、保護者の皆様、また本校に係る皆様の日頃のご支援に対してお礼申し上げます。今後とも本校の教育活動にご理解をいただき、更なる発展のためにご指導を賜りますようお願い申し上げます。

祝辞

PTA会長 中元 浩史

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、保護者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。さて、卒業生の皆さんにとって、城山高校で過ごした3年間はどんな日々だったのでしょうか？まだ見ぬ同級生や先生に緊張を感じスタートさせた学校生活には、日々の学習や部活動、文化祭や体育祭、修学旅行といった沢山の思い出が胸に詰まっていることでしょう。

私は、城山高校に関わって3年目になりますが、本校の人と人との関わりや、物を大切に育てる学習環境、そしてここで学ぶ生徒たちにとっても魅力を感じています。

ここで皆さん、城山高校の生活を思い出してみてください。

1年次生の時の文化祭は覚えていますか？

「協同協心」というテーマのもと、各クラスが工夫をこらした発表や販売などがあり、私たちPTAもお寿司やおにぎり等の販売で参加させていただきました。また、校舎内に飾られていたTシャツアートは個性の詰まった作品が多くとても印象的で皆さんの思いが伝わってきました。

2年次生の時の体育祭で「銀鱗躍動」というスローガンをもとに、男女混合で挑んだ競技（パンの早食い&ラムネの早飲み）や、力勝負の競技（綱引き、タイヤ奪い）、意思統一が必要な競技（大縄跳び・2人3脚）など様々な競技に各団・各個人が真剣に取り組んでいる姿がとても輝いており印象に残りました。また、天候不安定の中プログラムを速めて進行しても、子どもたちの臨機応変にプログラムを処理していく姿はとても逞しく見えました。

3年次生の時は、コロナウイルスによる学校休校に始まり、感染予防を行いながらの学校生活、保護者や来賓の参加がない文化祭など、1、2年次生の時は出来た事も出来ない事が多くなり、新しい生活に戸惑いや不安を感じていた生徒も多かったと思います。この新しい学校生活への対応の試行錯誤の一年間は皆さんが社会人として一歩を踏み出す為の良い経験になったと思います。

3年間の学習を振り返ってみてください。

保育実習や社会福祉実習、心の冒険教育や課題別研究発表会。ボランティア活動や農園作業、学校見学や事業所訪問の取り組みなど、様々な学習活動があったと思います。その学習や学校行事、クラブ活動や友人関係など、充実感や達成感を味わうことができたこともあれば、その一方で失敗して胸が痛くなるような辛い思いをしたこともあったのではないのでしょうか。しかし、それらの経験は、何ひとつ無駄ではないと私は思います。これから皆さんが生きていく人生や社会環境では、多くの成功や失敗を経験していくかもしれません。そんな時に覚えてほしい言葉があります。

南アフリカ共和国第8代大統領でノーベル平和賞を受賞した、ネルソン・マンデラの言葉です。

「The greatest glory in living lies not in never falling, but in rising every time we fall.」

訳は、「生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある。」と言っています。

人生で、転ばないように失敗しないように生活するのではなく、転んでも失敗しても再び立ち上がり挑戦し続けることが必要であり、一つ一つの経験の積み重ねが、将来への成功であり、

栄光に繋がっていくという事です。これから、多くの失敗を経験し失望すると思いますが、失敗を恐れて何も挑戦せずに生きていても成功はありません。

卒業生の皆さんは、城山高校で学んだことに自信と誇りを持ち、人との繋がりを大切にして頑張ってください。心より応援をしています。また、城山高校の同窓生の立場として在校生をはじめ、入学してくる生徒達の成長を見守ってください。よろしく願います。

最後になりますが、今日の良き日を迎えるために、3年間、親身になってご指導いただきました校長先生をはじめ、諸先生方には深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。皆さんが、愛情を込めて育んでくださった保護者、関係者への感謝の気持ちを忘れずに、さらに大きな人間へと成長していけることを願い、私たちPTAも精一杯の応援をするをお約束して、お祝いの言葉とさせていただきます。

卒業生の皆さんへ

校友会会長 北本 洋介

卒業生の皆さん、晴れのご卒業おめでとうございます。又、ご家族の皆様におかれましても、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

さて、高知県立城山高等学校をご卒業される皆さんは、高等学校の教育課程を修め、新たな社会へ飛び立とうとして不安な気持ちをお持ちでしょう。又、昨年、世界中を脅威にさらしている「新型コロナウイルス感染」による、健康被害や経済の停滞等大変厳しい時代に突入しております。日本をはじめ、世界は今、新型コロナ

ナウウイルス感染の危機に直面しております。新型コロナウイルス感染症は拡大の一途を辿り、収束に向かう気配は未だ感じられませんが、「コロナウイルスワクチン」の実施が世界各国で始まっていることが一つの朗報でありますこと、今春卒業される皆様にとっても明るい話題になることでしょう。

このような中、私からは、今、社会へ大きく羽ばたこうとしている卒業生の皆さんへ、経営の神様と称される「松下幸之助」の言葉をお送りします。「松下幸之助」は、赤貧・病弱・無学歴にも拘らず、丁稚奉公から身を起し、戦後、財閥指定や公職追放をはじめ様々な境遇を乗り越え、一代で世界的企業へと発展させたことは有名です。この「松下幸之助」の言葉に「雨が降れば傘をさす」という言葉があります。これは雨が降ってきたから傘をさすという行為以前に、事前に傘を準備しているかどうか、雨が降るかどうかが予知するか、そういう危機管理の重要性を指摘しています。特にこのコロナ禍の時に傘をささずにウロウロしている事は一番危険です。「雨が降れば傘をさす」との原理原則に則れば、当たり前ですけれど、マスクをするとか三密を避けるとか免疫力を高めるとか、やるべきことが全部見えてくる。平易にして危険への対処を見事に語っている素晴らしい言葉だと思います。

「松下幸之助」が一番大事にした日本人の歴史の中で築かれた尊い精神、先人の危機に対する考え方を学んでいく必要があります。2500年にわたって営々と受け継がれてきた日本人の価値観、美意識を研究し、この新型コロナウイルスと共存しながら繁栄する道を議論し、模索していただきたいと願うものです。

周囲の人への感謝と思いやりをもって、社会でより豊かに、より幸せに生きていきたいと思います。

よう願っております。
皆さんの今後のご活躍とご健勝をお祈りするとともに、ご卒業のお祝いの言葉といたします。



令和2年度高知県教育長・高知県高等学校PTA連合会長表彰

去る2月6日令和2年度高知県教育長・高知県高等学校PTA連合会功労者表彰式が高知会館にて催されました。その中で香長地区から本校PTA会長の中元浩史さんが高知県教育長・高知県高等学校PTA連合会長表彰を受賞されました。

中元会長は平成30年度から3年間PTA会長を務められました。

その間、体育祭や文化祭などの学校行事に意欲的に関わり、本校PTAの活性化にご尽力され、また、いじめ防止対策委員会の委員として保護者の立場から予防的な視点から、その対策方針について具体的な提案等をいただきました。

令和元年度には、高P連高校生育成員制香長地区連絡協議会の委員長として、高校生の自転車運転時のヘルメットの着用などの香長地区の活動方針についてまとめました。

このような功績が認められ、今回の受賞につながりました。本当に3年間お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。とうござい



3年目の先生からメッセージ「贈る言葉」

3年Aホーム・主任 小野川 由理

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

3年前城山高校に赴任し、皆さんと出会いました。久しぶりの担任という事もあり、大変緊張してのスタートとなりました。学校には様々な行事があり、女子は可愛いさやおしゃれにこだわったアイデアをくれました。「いつともきれいにしてくれて、ありがとう。」男子は何やかんや言いながらも、最後は私のこだわりにつき合ってくれ、力仕事を買ってくれた事、「助かったよ。ありがとう。」クラス替えもありましたが、3年間持ち上がる事で学校生活の大半を共に過ごしました。朝のSHでは「今朝は何人おるやろ」と、つぶやきながら教室に向かいました。帰りのSHでは「早う終わって！」と、前も向かず返事もない皆に向かって「よい？」が私の口癖になっていました。

学校にいる時は我が子のように思っていただけに、卒業の喜びと旅立ちの寂しさを感じています。これから先、変わることを恐れず、叱られることにくじけないで、いろんな事に挑戦してください。そして「ありがとう」を口ぐせに、感謝の気持ちを忘れない生活を送ってください。

皆さんのご活躍を心からお祈りし、次に逢える日を楽しみにしています。

3年Aホーム・副主任 佐野 遥菜

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんとは、2年次生の時から2年間関わらせていただきました。初めて皆さんの授業を担当したときは、大声で歌う子がいたり、倉庫からいろんな物を持ち出して遊ぶ子がいたり、正直少しパニックになったのを覚えています。しかし、初めての学校で不安だった私に、たくさん声をかけてくれて、元気をくれたのも皆さんでした。

これから、それぞれが新しい場所、いろいろなことを経験すると思います。苦労すること多いと思いますが、乗り越えることで自分の成長につなげていってください。

2年間、本当に楽しい時間をありがとうございました。これからも皆さんの活躍を祈っています。

3年Bホーム・主任 和田 卓義

Bホームの皆さん、卒業おめでとうございす。昨年度に初めてお会いしてから2年が経とうとしています。当初は生徒数が多くないので、名前はすぐに覚えられ、高をくくっていました。期待通り数日後には、フルネームで顔と名前が一致するようになりました。個性的な人々が集まっているおかげです。

さて、その個性的な面々と多くの時間を過ごすことになりましたが、最初は学校行事に全員参加しているということが少なく、この先の楽しい思い出が作れるのかどうか心配でした。時刻に遅れるというのは今現在でも直っていないところがあるので、今後の君たちの課題となります。

こうした学校生活の中でも、少しずつですが

進路に向けての目標が定まってきたのは2年次も終盤でした。結果的に卒業までには全員が自分の進路を決定できてうれしく思います。今日の困難な社会的状況にあつて、自分の第一希望ではないにしても何かの成果を上げることができたということはとても意味のあることです。しかしながら、高等学校卒業や就職・進学というのは若い君たちにとっては最初の通過点にすぎません。何といたっても君たちの人生は数十年残っています。例えば、君たちはワールドカップをこれから10回以上見られるのです。すごいことではありませんか。若い時には経験が少なく、困難なことがあつても容易に克服できないこともあります。それでも、君たちには多くの時間が残されています。あわてずに君たちの人生を進んでください。

3年Bホーム・副主任 弘田 美佳

卒業生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございす。

3年次生として過ごしたこの1年間は、自分の将来について、これまでになく考え、考えたことだと思えます。思い描いた進路を実現するのも諦めるのも自分次第です。これからは継続した努力と経験をし、自分を頼りにして生きる痛快感な人生を送ってほしいと思います。皆さんの輝く未来に幸多かれとお祈りいたします。



進路内定状況 (令和3年2月5日現在)

進学

徳島文理大学

(総合政策学部総合政策学科)

名古屋経済大学

(法学部ビジネス法学科)

高知開成専門学校

(IT情報科公務員専攻)

高知情報ビジネス&フード専門学校

(セールスマネジメント・フライダル)

高知情報ビジネス&フード専門学校

(製菓製パン学科)

高知理容美容専門学校(美容科)

高知福祉専門学校

(子ども福祉学科保育士コース)

四国医療工学専門学校(臨床工学科)

龍馬看護ふくし専門学校(看護学科)

就職

陸上自衛隊一般曹候補生

航空自衛隊候補生

陸上自衛隊候補生

株式会社高知ヤマザキ

株式会社かね岩海苔

株式会社天下味

株式会社土佐農道

株式会社精工

山九株式会社黒崎事務所

(フランク事業部)

ダイオームルスポーツ株式会社

ダイオームルスポーツ株式会社

南海ヤンマーティーセル販売株式会社

山崎製パン株式会社

学校行事

ホームマッチ

12月24日(木)

ホームマッチが開催されました。開催種目は体育の部がバドミントン(ダブルス)、6人制バレーボール、そして文化の部が総当たりで戦うババ抜き3競技。各ホームがそれぞれの分野の代表を選出しホームマッチに挑みました。

各競技の結果はバドミントン1位1A長野・和田ペア、2位3A山本・高橋ペア、3位2A草道・森國ペア バレーボール1位3A、2位2B、3位3B ババ抜き1位1B、2位2B、3位3Aとなりました。



起震車体験(防災LH)

1月13日(水)

南海トラフ地震の発生確率は今後30年以内に70〜80%と見込まれ、その切迫度は年々高まってきている。東日本大震災では、福島県いわき市で震度4以上の揺れが190秒も続いた。南海トラフ地震においても体に感じる揺れが3分以上続く恐れもあるといわれ、その間に最大震度7の揺れが2回起こると予想されている。ま

ず、この揺れから安全に身を守る行動がとれないければ避難できないし、命をつなぐこともできない。そうしたことから今回の起震車体験を実施した。多くの生徒が小学校や中学校時代に経験しており2回目ということであったが、高校生になった今、改めて体験をして色々なことを想像したことと思う。この揺れをとまなう地震が襲ってくるのは果たしていつなのか。「昼間なのか、寝ている時なのか、一人でいる時か、友達や家族という時か、建物の中か、食事中か、風呂に入っている時か、トイレにいる時か、川なのか、海なのか」いつ、どこで、何をしている時に起こるのか誰にもわからない。来るべき時に備え、今回の起震車体験をとおして感じたことを、今後の防災意識の向上に繋げてほしいと思います。



令和2年度課題別研究発表会

1月20日(水)

恒例の「課題別研究発表会」はコロナ禍の影響で本年度は中学生や来賓を招かず、校内の在学生だけで開催しました。開催方法も、3年生4名の代表発表をリモートで3会場で視聴する方法をとりました。3年次生の代表者は3年

間の学習活動の成果として、進路実現をまとめた発表となりました。その発表を聞き、在校生の感想のいくつかをまとめてみました。

- 将来の夢や卒業してやりたいことが、はっきりすることが大切。(1年次生)
- 声はきはきして、聴きやすく説得力がありました。(1年次生)
- 進学には小論文が大変そうだとわかりました。(1年次生)
- 体力と早めの準備が大切だとわかりました。(1年次生)
- 本をたくさん読むことが大切(1年次生)
- 日々の積み重ねが大切だとわかりました。(2年次生)
- オープンキャンパスへの参加が大切。(2年次生)
- 自分をよく知ることが大切だとわかりました(2年次生)
- やりたいこと、得意なことに向かって進路を決めることはいい(3年次生)
- 自立したい気持ちが伝わってきた。(3年次生)



新年の清掃ボランティア

1月23日(水)

今年1回目のボランティアが行われました。本校生徒会執行部では、学校の施設を美しくすることによっていじめやいたづらを防止し、快適に学校生活を送ることを目的としてボランティアを計画しました。土曜日のこの日人気のアニメは公開延期になる社会状況ではありましたが、執行部役員の2年次生6名と1・2年次生ボランティア6名は起動開始時刻の9時に目標地点である昇降口に集結、熱心に清掃を行いました。昇降口の照明を変更するのに合わせて、主に靴箱をきれいに、利用しやすくするのが目的です。また、校長先生や生徒有志によるフラワースタンドも制作され、美しい昇降口になるうとしています。

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて

日ごろは、マスクの着用・石けんでの手洗いや手指消毒、3密を防ぐ等、新型コロナウイルスへの感染防止対策にご協力いただきありがとうございます。今後も継続していくことが、収束への近道となりますのでよろしくご協力ください。なお、ご家庭でも同様の対策をしていただくことで感染拡大を防ぐことができます。「家に帰ったら石けんで手を洗う」「友達と会話する際も今は、マスクをつける」「換気の悪い密閉空間・大勢がいる密集場所・間近で会話する密接場面を避ける」等、一人ひとりが心掛けていきましょう。



社会福祉の授業から

「要約筆記」2年次生

1月27日(水)

聴覚障害の特徴や要約筆記の必要性などについて説明を受けた後、要約筆記用のビニール紙に書く練習をしました。二人一組になり、1分間スピーチをする人と要約筆記をする人に分かれ、実践しました。「字を書き間違えてしまう」「まとめるのが難しかった」といった声が聞かれました。生徒は、文字におこすスピードとわかりやすい単語等を使う難しさを体感し、『伝え方』について深く考えさせられたようです。

「手話」2年次生

1月25日(月)

高知県聴覚障害者協会の山中睦子先生と、手話通訳者の西田玲子先生を講師に招いて手話講座を行いました。自分自身の日常生活を記入したプリントを活用し、聞こえない生活との比較をしました。また、聴覚障害がある方が日常生活で使っている道具なども見せていただき、聴覚障害がある方のくらしについて理解することができました。実技では、「よろしく」「ありがとうございます」といった挨拶や日常会話がよく出てくることばや各自の名前の示し方を学び、災害時に必要とされる手話「地震」「津波」「逃げろ」を学びました。後日、授業では手話の復習手話をしたり、感想文を書いたりするなどして、聴覚障害者の方への関心と理解を深めました。



「点字」2年次生

1月26日(火)

私たちの生活の中にある点字を考えた後、点字の基礎を学び、点字板を使って点字を打ちました。五十音や簡単な文章を練習した後に、校内を回り必要と思われる場所を確認し、その場所に点字シールを貼るよう準備をしました。できた点字シールは、後日、事務室前玄関入口やトイレのドアノブに貼ることができました。また、日常生活の中にあるユニバーサルデザインが用いられている商品を提示していただき、視覚障害者の生活にどのように結びついているのかを学びました。点字を打ってみると、打つことよりも読むことが難しいという声があり、指先で点を読む視覚障害者の方の感覚の鋭さに驚いていました。初めての体験ではありましたが、興味を持って取り組み、点字や視覚障害者について理解を深める活動ができました。



生活・情報型の授業から

「製菓実習」洋菓子講座

和菓子講座

10月27日(火)
1月27日(水)

3年次生の選択「製菓実習」では、気ままSweets甘音の中島さんより洋菓子の技法について、武市神栄堂の武市さんより和菓子の技法について、それぞれ学ぶことができました。この教科は昨年度新たに設けられ、今年で2年目の

教科です。製菓・製パンで使用する主な材料をテーマに実習を行います。中島さんからは、生クリームを絞り袋一つでデコレーションする方法を学び、生徒から驚きの歓声が上がりました。香我美町で和菓子店を営んでいる武市さんは、本校の卒業生だそうです。掌に広げた餅をあんこで包み、指先や布巾で成型する技法に生徒らも見入っていました。間近で見るとそれぞれのプロの技に触れると同時に、店頭で並ぶ本物の味を食することができ、心もお腹も満足した様子でした。



部活動紹介

ふくしデザイン部

・1月～3月 月2回程度赤岡小学校へ学習支援のボランティアスタッフとして参加
・1月～3月 毎月1回通学路の清掃

イラストデザイン部

イラストデザイン部は、前回から引き続き、香我美市民館様から依頼を受けた8コマ漫画の制作に取り組みました。
2年次生の男子により力強いタッチで野村長平のエピソードを描くことができました。

ビジネス研究部

ビジネス研究部では、各種資格取得を始め、デザイン制作などの個人スキルアップ向上や地域活性化に取り組んできました。

サッカー部

今年度は新型コロナウイルスの影響で新人戦が中止になりました。現在は8名の部員で練習に取り組んでいます。来年度は多くの新入部員を迎え、単独で各大会に出場したいと思います。

バスケットボール部

今年度は、東部支部大会、県体に出場しました。2大会ともに1回戦突破を果たし、公式戦での勝利は昨年度のバスケットボール部復活以来初めてとなりました。その後、新型コロナウイルスの影響で冬の大会は中止となり、現在は少人数ですが、来年度の大会に向けて練習に励んでいます。

階段掲示を始めました

日常使用する校舎の階段を学習環境に利用できないかと考え、城山高校教職員に呼びかけ、集まった言葉を掲示しています。保健室に続く南舎西階段には「メンタルヘルス」に係る言葉を、そして進路指導室に続く南舎東階段には「夢に向かう言葉」などを掲示しています。素敵な言葉がたくさんあります。本校にお越しの皆様方、ぜひご覧ください。



各種表彰

令和2年度高知県介護職員初任者研修修了者

3 B 岡林 諒、寛 未優、窪内 智優

3年間精勤賞

3 A 高橋ゆみ子

1年間皆勤賞

3 B 寛 未優、橋本 聡

1年間精勤賞

3 A 井野絵里奈、高橋ゆみ子

3 B 窪内 智優

後期週明けテスト表彰生徒

3 A 高橋ゆみ子

3 B 中元 隆斗

公益財団法人 全国商業高等学校協会

成績優

秀者

3 A 武市 要汰

校友会幹事

3 A 高橋ゆみ子、武市 要汰
3 B 寛 未優、坂本 莉乃

主な行事予定

- 3月2日(月)～9日(火) 考查V
- 3月4日(木)・5日(金) 入試A日程の為 在校生立入禁止
- 3月10日(水) 答案返却 (A.M)
- 3月19日(金) 後期終業式
- 3月22日(月) 入試B日程の為 在校生立入禁止
- 4月6日(火) クラス発表
- 4月7日(水) 始業式・入学式

令和2年度 学校評価アンケート

実施日：令和3年1月4日から1月26日

対象者：生徒85名（回収率90％）・保護者79名（回収率84％）・教職員21名（100％）

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 未回答

	生徒	保護者	教職員	
質問_1 生徒（あなた・お子様）は、充実した学校生活を送っていると思いますか。				肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較してほぼ同評価である。生徒の80％に対して、保護者は74％、教職員は67％と肯定的評価は低い。
質問_2 学校は分かりやすい授業（基礎学力の定着や実力の向上につながる授業）に努めていると思いますか。				保護者・生徒の肯定的評価は昨年度と比較して8～12ポイント増加している。しかしながら教職員と比較すると肯定的評価が低い。教職員が努力しているにも関わらず、生徒や保護者に実感できていない部分があるのであろう。また教職員の「そう思わない」と回答した5％は努力しているが生徒に成果として表れていないと考える回答と考えられる。
質問_3 本校は、生徒に人権を尊重する意識・感覚を育てようとしていると思いますか。				肯定的評価が過半数を占めている。しかし昨年度と比較したとき、生徒・保護者の肯定的評価は6～8ポイント減少している。質問5・6とも肯定的評価が昨年度と比較して減少していることや質問10で「いじめ・暴力行為を許さない学校づくり」への要望が高いことを考えると、安心・安全な学校生活を送るための指導や支援体制のさらなる充実が求められることがわかる。
質問_4 本校は、就職・進学などの希望に応じた進路指導ができていていると思いますか。				肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較したとき、ほぼ同評価となっている。3年次生に対する計画的な進路指導、2年次生の進路意識醸成、1年次生の進路指導など、細やかな指導・支援をさらに推進する必要がある。
質問_5 生徒は、自分たちのクラスで楽しく過ごせていると思いますか。				保護者・生徒の評価は肯定的評価が過半数を占めている。昨年度とほぼ同評価である。教職員の過半数が肯定的評価をしていないのは、生徒の人間関係調整について支援・指導することが多く「楽しく過ごせてはいないので」と心配していることが推察される。
質問_6 生徒や保護者からの連絡・相談について、本校は適切に対応していると思いますか。				全体的に肯定的評価が過半数を占めている。昨年度とほぼ同評価であるが2～5ポイント減少している。質問4と同様に今後も細やかな進路指導等が必要であらう。
質問_7 本校は、基本的な生活習慣（生徒の態度、服装、挨拶など）を身に付けられるよう適切な指導を行っていると思いますか。				全体的に肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較すると肯定的評価は保護者は11ポイント増加しているが、教職員は11ポイント減少している。服装等外から見える乱れ等は目立たないが、遅刻・欠席など基本的な生活習慣が心配される点の現れではないだろうか。
質問_8 生徒の学校内での生活態度は良いと思いますか。				質問中、保護者からの肯定的評価が一番低い。過半数は超えているが生活態度が「とても良い」とは言えない状態であろう。教職員全員が肯定的評価をしているが保護者・生徒にとって生活態度が良くないと考え、質問10で「いじめ・暴力行為を許さない学校づくり」の要求評価が高いあらわれであらう。
質問_9 本校は、生徒の意見や要望を取り入れた学校づくりをしていると思いますか。				昨年度と比較すると、保護者からの肯定的評価は11ポイント、教職員の評価は14ポイント増加している。生徒評価は昨年とほぼ同評価であった。どういったら城山高等学校が安心・安全な学校になるかということを生徒・保護者・教職員でともに考える仕掛けづくりを来年度設定できたら良いと思われる。
質問_10 次の項目のうち、これから特に学校が力を入れる必要があると思う項目を3つまで選んで答えてください。	地域や保護者の意見を取り入れた学校づくりを進める 安全対策をしっかりとる 不登校、中途退学対策に力を入れる 豊かな心を育む教育や人権教育に力を入れる いじめや暴力行為を許さない学校づくりを進める 社会のルールや校則の指導に力を入れる 学校行事や部活動を充実させる 先生の生徒指導や授業の力を高める 進学・就職の実現に向けた進路指導を充実させる わかりやすい授業をする			昨年度とほぼ同様に生徒・保護者から一番要望が多かった「わかりやすい授業をする」ことについては学校教育の本質に期待する様子が見え、質問2で教職員と保護者・生徒とのギャップがあるように、教師の自己満足に陥ることなく生徒たちが充足感を持つことが必要であらう。質問2で教職員と保護者・生徒とのギャップがあるように、教師の自己満足に陥ることなく生徒たちが充足感を持つことが必要であらう。また「いじめや暴力行為を許さない学校づくり」は保護者・生徒・教職員の要望が高い。安心・安全な学校を目指すために来年度に向けて早急に方策を練ることが必要であらう。